

京都スタジアム検討特別委員会

日 時 令和4年12月14日（水）午後2時（予定）～
場 所 全員協議会室

1 開 議

2 案 件

(1) 委員長報告について

3 そ の 他

京都スタジアム検討特別委員会 委員長報告（案）

（令和4年12月19日）

京都スタジアム検討特別委員会が、今期4年間にわたり取り組んでまいりました、調査及び審査の経過を報告します。

本委員会は、前身となる京都スタジアム（仮称）検討特別委員会が担ってまいりました、JR亀岡駅北側へのスタジアム建設に対する市民への説明責任について、ひとえに市民福祉の増進に寄与すべく、その役割と思いをしっかりと引き継ぐ中で、平成31年3月議会において、全会一致で決定し、設置したものであります。

本委員会の活動としては、市民の負託を受けた、我々議員への情報提供を最優先することを基本に、京都府担当部、また本市執行機関に出席を求め、スタジアムが及ぼす影響や効果、現状や今後の方向性等について報告を受ける機会を積極的に設けるとともに、現地調査の実施や、市民要望の審査で提出者の意見陳述の機会を設けるなど、あらゆる場面において、慎重に、かつ活発な質疑を行いながら、計10回にわたり委員会等を開催し、目的達成に資する調査活動を実施してまいりました。

委員会の設置後、まずは、平成31年3月、市民から提出された、「（仮称）京都スタジアムの大きな課題に亀岡市が果たすべきことに係る要望」について、審査を行いました。その主な内容は、「交通アクセス、設計上の課題、管理運営問題などについて、亀岡市が主体性をもって取り組むよう、執行部に対して積極的に働きかけること」でありました。その後、令和元年6

月にも、2回目となる要望書が提出されました。「(仮称) 京都スタジアムに関する要望」と題し、その主な内容は、「交通処理やスタジアムの利活用について、亀岡市として積極的に調整を図ること」でありました。いずれの要望に対しても、直接市民の声を聴く場として、提出者が意見陳述する機会を設け、執行部傍聴のもと、慎重かつ活発な質疑を行いました。審査の結果、「貴重な意見として委員会活動の参考にし、生かしていくこと」としたところであります。

また、令和元年5月には、スタジアム建設地に議員派遣し、京都府文化スポーツ部より、工事の進捗状況等について説明を受けるとともに、工事施工事業者を交えた現場調査を実施しました。完成を間近に控えたスタジアムの現況について、慎重かつ活発な質疑を行い、順調に工事が進捗している旨確認したところであります。

その後、令和元年7月、令和3年8月、令和4年10月の3度にわたり、京都スタジアムに関する大きな課題である、交通アクセスや市内交通への影響を主題として、執行部より説明や情報提供を受け、所管する調査を継続実施してまいりました。

まず、令和元年7月には、「京都スタジアムへの交通アクセス」として、公共交通機関であるJRと自家用車の利用に係る現況や課題について、スタジアム現場見学会のアンケートや交通量調査の実測データによる検証結果と、その対策等について説明を受けました。

令和3年8月には、「京都スタジアムで多数の来場者があった場合の交通状況及び対策等」について、スタジアムこけら落としイベントにおける来場者の交通手段や市内道路の状況と、そ

の傾向や対策について説明を受けるとともに、スタジアムの利用状況や付帯施設等の開設状況について報告を受けました。また、関連道路の整備状況として、市道クニッテルフェルド通の国道9号頼政塚交差点左折レーン整備、府道郷ノ口余部線宇津根橋架け替え整備、亀岡中部地区国営緊急農地再編整備事業地内を通る、市道並河蚊又線整備の進捗状況や計画等について説明を受けました。

また、令和4年10月にも、再度、「京都スタジアムで多数の来場者があった場合の交通状況及び対策等」として、京都サンガF. C. J1リーグ昇格後の入場者数や試合開催時の交通等状況調査結果、試合後の京阪京都交通の遅延状況等、その傾向と対策について説明を受けるとともに、関連道路整備の進捗状況について報告があったところであります。

試合開催日における市街地や主要交差点の交通渋滞、生活道路への自家用車両の流入は、スタジアム建設前から懸念された大きな課題であります。これら課題を解消すべく、先述の道路整備等が進められてきました。念願の宇津根橋架け替え、また、市道クニッテルフェルド通の国道9号左折レーン整備の完了により、交通渋滞に一部緩和が見られるものの、いまだ大きな課題解決に至っておらず、次なる策として市道並河蚊又線の開通が期待されます。令和8年度までの国営事業の進捗に合わせた計画ではありますが、地元理解をいただく中で、関係機関との調整を含めて、可能な限り前倒した事業推進に一層尽力され、早期開通を願うところであります。

併せて、現在進行中の南丹都市計画道路事業、馬堀停車場篠線の整備も、市街地の交通渋滞の改善策として、その事業効果に期待しています。また、市街地内に自家用車両を流入させな

いパーク・アンド・ライドの取組は、スタジアム誘致の段階から効果的な対策の一つとして、実施に向けて検討されると聞き及んでいるものの、一向に実行されない状況であり、早期実施を願うところであります。さらには、既存の公共交通機関への誘導と周知・徹底は当然のことながら、一層の利便性向上として、スタジアムへの直行バス充実も有効であると考えられます。これらのことは、委員会において執行部に指摘していますが、スタジアムに付随する喫緊の課題として、市民生活や来場者の帰路に影響が出ている現状を真摯に受け止め、亀岡市民の悲願である国道9号の慢性的な渋滞解消も含めて、さらなる効果的かつ実効性ある手立てを、あらゆる角度から真剣に講じられることを切に願います。

次に、委員会でスタジアムが本市に及ぼす影響等について、多角的に協議を行ってきた中、スタジアム付帯施設の一つであり、スポーツクライミングの国際基準を満たすクライミング施設に関して、一般社団法人京都府山岳連盟から安全管理の不備について相談を受け、執行部を通してその状況を確認しました。このことを受けて、本委員会から、「京都府山岳連盟が改善要望として示す問題点について、事故が起こらないように、安全対策に最善を尽くされたい」との要望を、令和4年11月に京都府文化スポーツ部長宛てに提出しましたが、その後、京都府において、原因となった通路撤去等の改修により、改善を図る旨発表されております。

京都府におけるスポーツ文化の振興を担うとともに、地域のにぎわい創出に資する期待を大きく抱く中で、京都府により、平成24年12月に候補地として英断いただいてから、自然環境と共生するスタジアムの実現に向けて検討が重ねられ、亀岡駅北土地地区画整理事業地内である現在の場所への建設地変更を

経て、令和2年1月にスタジアムが無事完成いたしました。サッカー等の国際試合が開催可能であるとともに、環境にやさしいエコロジースタジアムとして最新機能を備え、日本初の国際基準を満たした屋内型スポーツライミング施設や、VR／フィットネスゾーン、eスポーツゾーン、コワーキングゾーン等、また保育園までもが併設され、さらには、現在、木育ひろばの整備計画も進行中であり、従来のスタジアムと一線を画す、世界に誇れるスタジアムであります。

開業直後にコロナ禍が直撃し、無観客試合やイベントの中止、併設した大河ドラマ館の不調等が相次ぐ一方で、密を避ける対策等として、東京2020オリンピック聖火リレー、ワクチン大規模接種会場、成人式、学校行事等が創意工夫により積極的に行われ、また、かめきたサンガ広場をはじめとする公園等、交流・憩いの場の創出や、ホテルの開業、マンション建設、飲食店、民間パーキング等も次々と計画・完成し、スタジアムを核としたまちづくりが、いよいよ目に見える形となってまいりました。マルシェ等各種イベントも含めて、多世代のにぎわい創出や地域活性化が着実に進んでいることは、評価できるものであります。そのような中で、スポーツ庁・経済産業省により多機能の戦略等が評価され、「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」に選定されたことは、喜ばしい限りであります。

スタジアムを核とするまちづくりへの市民の期待は大きく、スタジアムをどのように生かし、そのメリットを市民がどう享受していくかについて、未来への持続可能なまちづくりを進める上で、非常に重要な課題であります。昨年スタートした「第5次亀岡市総合計画」を指針として、文化・スポーツの振興や多世代交流を、市民とともに一体的に推進することにより、子

どもたちをはじめ、様々な世代がこの亀岡に定住し、安心して健康でいきいきと暮らすことができる「まちづくりの交流拠点施設」となるよう、各種施策を積極的に推進していく必要があると考えます。サッカー等スポーツに限らず、子育て施策等を含めて一層の創意工夫を凝らし、ホームゲーム日以外にも大いに賑わいが見込めるよう、市内の経済界等とも連携しながら、市民福祉の増進はもちろんのこと、地域経済へしっかりと波及できる仕組みを率先して創造し、「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」としての魅力を高めていく必要があります。そのためには、まずは、市民の日常生活にマイナスの影響が出ないよう、また、スタジアムの利用者や来市された方の期待を上回れるよう、引き続き十分な調査と分析を行い、喫緊の課題である交通渋滞解消をはじめ、あらゆる効果的な対策を迅速に講じられたいと考えるところであります。

最後に、これまでも幾度となく申し上げてまいりましたが、多くの人たちの熱意と努力、そして市民の声によって動き出し、長きにわたりその在り方が検討されて建設できたスタジアムであります。アユモドキを献身的に保全されてきた地元保津町の皆様、用地提供に御協力いただいた方々、その他多くの方々の大変なご尽力があったことは言うまでもありません。そのような礎をしっかりと胸に刻み、私たち市民にとって身近で、誰にも愛されるスタジアムに育てていくことが切望されます。このことは、本市に課せられた大きな使命であり、スタジアムを十分利活用し、着実に次代へ引き継ぐため、市議会としましては、今期で特別委員会を閉じますが、今後とも調査機能を高め、来期においても各常任委員会等において、スタジアムを核としたまちづくりをしっかりと見守り、市民が主役となる取組の推進により、市民福祉の増進に一層努められるよう望み、以上簡単であります。調査及び審査の報告といたします。